

出雲市スポーツ推進委員だより

第6号（平成27年4月）

スポーツ推進委員の歩み

出雲市スポーツ推進委員協議会

事務局長 矢田 栄子



スポーツ推進委員の前身である体育指導委員制度が発足したのは昭和32年。同36年に制定された「スポーツ振興法第19条」において、市区町村教育委員会任命の体育指導委員として法的に位置づけられました。

体育指導委員を非常勤の公務員とするこの制度は、世界に例を見ないユニークな制度であり、体育指導委員はわずかな財政負担の中で、非常勤公務員という誇りと使命感のもと、ほぼボランティアともいえる活動を通して、地域スポーツの拡大発展に大きく貢献してこられました。

平成23年8月24日、スポーツ振興法が50年ぶりに全面的に改正され、改めてスポーツの理念を定め、国及び地方公共団体の責務やスポーツ団体の努力などについて定めた「スポーツ基本法」が施行されました。この時、従来の体育指導委員は「スポーツ推進委員」と名称が変更されました。

また、スポーツ推進委員の活動に「連絡調整等の職務」が加わり、文字どおり地域スポーツ振興の推進役であるスポーツ推進委員のコーディネーターとしての役割が一層期待されており、その責務の重要性とともに、活躍の場は今後さらに広がっていくものと思われます。

出雲市スポーツ推進委員の皆さんは、子どもの体力づくり、青少年健全育成、世代間交流、高齢者の体力づくりなど、地域での事業を展開されています。また、コミュニティセンターや地域スポーツ団体と連携し、調整役としてスポーツによる地域振興の一翼を担う活動をされています。

特に、平成26年度は島根県内のスポーツ推進委員が一堂に会し「島根県スポーツ推進委員研修会」が出雲市を会場に開催され、出雲市スポーツ推進委員の皆さんは実行委員会として主管されました。準備のための会合を重ねられ、一人ひとりがスタッフとして研修会を支えておられた姿が強く印象に残っています。本当にお疲れ様でした。

出雲市においては、広域市町村合併や近年の行財政改革によりスポーツ推進委員の委嘱数の減など大きな改革の波が押し寄せています。併せ、人口の減少や少子高齢化など、活動の場となる地域も大きく変化しています。

私は、平成26年4月に出雲市スポーツ推進委員協議会の事務局長の職務に就きました。変化する環境の中で、協議会が一丸となって地域スポーツの推進役として貢献できるよう、これからますます精進してまいりますので、今後ともご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

第55回 全国スポーツ推進委員研究協議会 「スポーツで生み出す絆と和」

日 時：平成26年9月25日（木）～9月26日（金）

場 所：岩手県盛岡市

参加人数：約3200名

■みんなのスポーツ2014. 11よりあいさつ（抜粋）

下村博文 文部科学大臣（代読・芦立 訓大臣官房審議官）

現在、スポーツ推進体制を充実させる観点から、スポーツ庁の設置が進められ、その大きな柱として、スポーツによる健康増進や地域社会の再生が挙げられています。また、来年4月以降の教育委員会制度の改革により、教育委員会と首長局がいままで以上に連携し、町づくりを進める計画が進められています。このような中、スポーツ推進委員の皆様には、地域住民、学校、行政など地域スポーツのリーダーとして、スポーツの力で活力ある地域づくりの推進に向けて期待しております。

齊藤斗志二（公社）全国スポーツ推進委員連合会長

平成23年3月に発生した、東日本大震災の経験を踏まえ、改めて地域における「社会の絆」の重要性が認識されました。今大会のテーマである「スポーツで生み出す絆と和」は、スポーツ推進委員の重要な役割である、スポーツ推進のための事業に係る連絡調整、地域における交流促進、活力ある地域づくりの推進に向けて、スポーツの持つ力が試されるとともに、地域のコーディネーターとしてのスポーツ推進委員に大きな期待が寄せられています。新たな使命感と気概を持って、今後の地域スポーツのさらなる発展、活性化に向けた取り組みが展開されるよう願っています。

全国スポーツ推進委員研究協議会岩手大会に参加して感じたこと

全国から3,000名を超えるスポーツ推進委員が参加した第55回全国スポーツ推進委員研究協議会岩手大会が9月25日(木)26日(金)の2日間「陸奥(陸中)の国」盛岡市で開催され、出雲市から2名参加した。

今大会は平成23年3月の東日本大震災後に初めて被災地で開催されたことに意義があった。大震災から復興・復興の取り組みを通し「社会の絆」特に「スポーツで生み出す絆と和」というスポーツの持つ力をテーマにしたものであった。

大会の主会場である盛岡市アイスアリーナには被災市町ごとの写真「被災時、被災直後、在りし日の遺品探索、ボランティアの復旧作業、スポーツを通しての心のケア、支援者と協働作業による達成した姿」等が掲載されており、今までの大会と異なり「社会の絆」の重要性を再認識した。

シンポジウムのテーマは「“スポーツの力”で地域を元気に」、サブテーマは「“スポーツの力”で結ばれる活力ある地域づくりの推進」ということでシンポジストによる活潑な意見交換がなされた。

なかでも、地域スポーツの担い手である推進委員の役割である「人と人との交流、地域と地域の橋渡し」をすることが重要で研究協議会でも強く認識させられた。2日目はテーマごとに分科会が開催された。

初日の「今を生きる」と題し講演された狩野亮講師(バンクーバー・ソチパラリンピックアルペンスキー金メダリスト)は小学3年生の時、交通事故で脊髄を損傷したため下半身不随を医師から告げられた。このことを聞いた両親は講師の将来を思い落胆して一時期、一家心中をも考えたとのことを後で知ったそうである。ある日、両親が障害者のスポーツがあることを知り「夢と希望」が湧き、その後講師がやりたいというスポーツは何でもさせてくれた。5年生の時、アルペンスキー(チェアスキー)に出会い親しみ、競技スポーツへ没頭した。特に、パラリンピックで金メダルを獲得した選手のテレビ映像を見て更に熱中した。初めは、早く滑ることが勝敗を左右するとの思いから猛練習した。その甲斐があり技術は上達したが、大きな大会に何回も参加するが入賞できず、不満が募りジレンマに陥ったとのことである。ある時、支援者の一言で「感謝」「思いやる心」が欠けており、傲りの人生に気づいた。そのことで心にゆとりができるとともに成績が上向き、限られた交友関係から地区・地域へと広い結びつきができたと事例講演された。まさに、スポーツ推進委員活動にも当てはまるのではないかと感じた。

なお、初日の開会式後の表彰式では平田支部飯塚委員がスポーツ推進委員功労者表彰を受賞された。これは30年以上にわたり地域スポーツの振興に寄与された労苦に対する功績が認められたこと。また、森本会長は5年以上の長きにわたり賛助会員として物心両面からスポーツ推進委員連合を支援・尽力されたことが認められて感謝状が贈呈された。出雲市から2名受賞されたことは後に続く者として心の支えになった。

(出雲支部 永瀬明委員)



功労者表彰を受賞された
平田支部飯塚委員

ニュースポーツ普及事業

日 時：平成27年2月22日(日)

場 所：出雲体育館

内 容：ラジオ体操第1～第3、ワンバウンドふらばーボールバレー

参加人数：23名

2月22日(日)に何やら聞きなれないニュースポーツの講習会を出雲体育館で行った。

1つ目は、ラジオ体操第3である。第1と第2は何となくわかるが、第3となると私にとっては聞いたことも見たこともない初めて体験する体操だ。指導者の古川絵里香さん(器械体操の全日本社会人チャンピオンで、現在2連覇中のすごい体操指導員)から少しアップテンポな、格好も面白く、笑いも起きる楽しい体操の指導を受けた。これは頭の体操にも良いのかなと感じた。

2つ目は、ワンバウンドふらばーボールバレーだが、昨年の中国大会で紹介されたものである。森本会長以下中国大会参加者が指導した。バドミントンダブルスのコートに2mの高さのネットを張り、おむすび型の軽い変形したボールを5対5で打ち合う競技である。ルールは9人制のバレーボールと同様だが、サーブを打ち、レシーブ側はノーバウンドでレシーブする。9人制バレーの要領で相手にボールを返し、サーブ側にボールが返ってきたら必ずワンバウンドさせて返す。サーブのレシーブ以外は、必ずワンバウンドさせないといけないというところに意外性がありゲームを面白くしている。

しかし、いざ実践してみるとワンバウンド後のボールの行方がわからず、思うようにいかなかった。

皆さんもぜひ体験し、地域への普及に努めていただきたい。

記：事業部 立花委員(湖陵支部)

支 部 活 動

■大社支部

事業名 ニュースポーツに挑戦
日 時 平成26年12月1日(月) 13:30~15:30
場 所 荒木小学校体育館
参加人数 子ども31名、大人30名

午前中「全員集合!カローリング大会」に参加し、地域のみなさんと3世代交流で楽しみ、午後はニュースポーツに挑戦した。ワンバウンドふらばーボールバレー、輪投げ団体戦、室内雪合戦、フラフープ廻しなどを行った。

輪投げ団体戦は目標となる輪の中に相手チームが点数の書かれたカードを置き、入った輪の合計点が得点になる。カードにはマイナス得点もあり、どこに何点のカードを配置するか頭を使う。

参加した小学生は、点数の配置を話し合って決めるなど、和気藹藹でゲームを楽しんだ。

記: 石田正委員



■佐田支部

事業名 カローリング体験会
日 時 平成26年12月7日(日) 9:30~12:00
場 所 佐田スポーツセンター
参加人数 約20名 ※保育所年長さん~80才代

ほとんどの方が初体験で、微妙な力かげんとコントロールが難しく、なかなか狙ったところに行かない様子だった。

後半はチームにわかれ、総当たり戦を行った。

次回は周知方法を再度検討し、たくさんの方に参加していただけるよう企画したい。

記: 藤原雅子委員



■平田支部

事業名 カローリング教室
日 時 平成27年2月21日(土) 9:00~12:00
場 所 平田体育館
参加人数 約80名 ※6才~70才代

2月の寒い日ではあったが、初めての方、経験者の方、小さい子供を4人も連れて参加された親子、地区の体協の方、老人会、さまざまな方々に参加していただいた。

皆さんの笑い声があちらこちらから聞こえ、楽しい時間を過ごせたと喜んでいただき、また是非本格的にやりたいという方が何人もいらっしまった。今後も開催していけたら良いと思った。

記: 福田美穂委員



■斐川支部

事業名 ワンバウンドふらばーボールバレー体験広場
日 時 平成27年2月26日(木) 20:00~22:00
場 所 中部小学校体育館
参加人数 16名

出雲市スポーツ推進委員普及事業で研修を受けたばかりのワンバウンドふらばーボールバレーの体験広場を開催した。

ソフトバレーをいつも楽しんでいる方たちを中心に声を掛けたが、変形のボールを用いたりワンバウンド後に返球するなどいつもとルールが違い戸惑いも見られた。次第に声を掛け合いコツもわかってきて試合形式では大接戦になりとても良い汗をかいた。参加者は「自然と体が動いてワンバウンドせずに打ってしまう」と話していた。考えながらプレーをするので脳トレにもなったようで、笑いのたえない楽しい時間となった。

初めての人でも年齢性別を問わずに楽しめる競技なので、PTA・地域・スポ少などで普及していきたいと思った。

記: 吾郷明子委員



■出雲支部

事業名 西部地区カローリング大会
日時 平成27年2月8日(日) 9:00~12:00
場所 出雲市西部体育館
参加人数 24名

昨年度と同様、カローリング講習と大会を行った。今年は長浜のスポ少野球の選手も参加してくれた。高齢者から子どもまで幅広く参加があった。寒い中熱気にあふれたバトルが楽しく、3試合行われた。結果的に全勝したのが何とスポ少チームで大人が負けてしまった。珍プレーあり、好プレーあり、カローリングというニュースポーツを戦略性も含めて2時間楽しむことが出来た。

今後も、カローリングも含めてニュースポーツの普及をしたいと考えている。

記：板垣謙二委員



事務局だより

■県スポーツ推進委員協議会の役員改選について

理事は20名以内。各地区選出理事は50名に1人の割合で選出する。理事が出席できない時は同地区の委員が代理出席できる。(議決権を持つ)

■退任委員報告

今期で退任される委員の方は下記の通りです。長い間ご苦勞さまでした。

飯塚克己(平田:33年)、三成由美子(斐川:22年)、川角直人(大社:20年)、山崎享子(大社:12年)

野津恵子(平田:11年)、吉田博幸(出雲:6年)、高木泰子(出雲:6年)

持田友美(多伎:4年)、高橋雄太(大社:2年)、安井常光(佐田:2年)

【敬称略】

■平成26年度会議報告

総会 4/18
正副会長会及び代議員会 ①4/14 ②9/22 ③12/5 ④3/6
事業部会 ①9/18 ②11/13 ③3/23
広報部会 ①8/26 ②9/29 ③10/15 ④2/24 ⑤3/16
県研修会実行委員会 ①4/22 ②6/7 ③6/12 ④8/1 ⑤8/12

4月1日から事務局担当者が変更となります。

事務局担当：内田 剛
(NPO 法人 出雲スポーツ振興 21)
出雲市矢野町 999 (出雲健康公園内)
TEL 25-1006 FAX 25-0106

■平成27年度の予定

総会 平成27年4月14日(火) 19:00~ (会場：出雲市役所1Fくにびき大ホール)

全体事業：PR事業

日程：平成27年4月26日(日) 9:00~15:00 (予定)

場所：出雲ドーム

種目：ネットパスラリー、フライングディスク、スポーツチャンバラ、玉入れ、フロート、輪投げ

平成26年度と同様に「出雲ドーム de 健康&スポーツフェスティバル」にてニュースポーツPR事業を開催いたします。委員の皆様のご参加をお願いいたします！

会議・研修会

新人研修 : 5月頃
中国地区研修会 : 6月27日(土)~28日(日) 鳥取県鳥取市
県研修会及び女性研修会 : 8月29日(土)~30日(日) 隠岐の島町
出雲地区研修会 : 未定 飯南町
全国研究協議会 : 11月12日(木)~13日(金) 愛媛県松山市



イラスト：板垣謙二委員

《編集後記》今回題字を出雲支部板垣委員に揮毫してもらいました。

皆様のおかげで第6号を発行することができました。2年間の広報部活動はメンバーにも恵まれ充実していました。取り分け佐田支部藤原委員にはお世話になり感謝しています。この機関紙がこれからのスポーツ推進活動に役立ててもらえれば幸いです。

広報部

《出雲市スポーツ推進委員協議会事務局》

担当：勝部真理子
(NPO 法人 出雲スポーツ振興 21)
出雲市今市町北本町 3-1-6
(出雲体育館内)
TEL 21-1830 FAX 21-1831

題 字：板垣謙二委員 (出雲支部)

広報部：(部長) 久家彰・久野晴見・清水康子・田中宏子・土江孝夫・藤原雅子・安井捷征